つみきのキモチ

2018.3.9
vol.06

特集
「こ・あきない」のマインド

十符の里びと６人目
アーティスト
すがわらじゅんいちさん

from RIFU-CHO CHALLENGER
梨ん幹戦士
ナシルバー

利府駅前 tsumikiから
まち・ひと・しごとを発信

tsumiki
利府町まち・ひと・しごと創生ステーション

特集

「こ・あきない」のマインド

利府町には、特産の梨栽培などの農業、カキやワカメ養殖の漁業を生業にした暮らしがある一方、大型商業施設を中心に商業地域が形成され、仙台市への通勤通学圏内として新興住宅団地が発展してきた。
こうした地域資源を「つなぎなおす」ことを念頭に、「こ・あきない塾」と「こ・あきない市」はスタートしている。「まちを変える」そんな意気込みで、今日もチャレンジャーがtsumikiに集う。

tsumikiの「こ・あきない」

「こ・あきない」ってなんだ？

tsumikiでは、「小商い」という働き方に着目している。「こ・あきない」という表現は、古くて新しい。かつて東北地方では気候の問題から季節によって働き方を変えながら収入を得ていた。例えば、春から秋にかけては農作業に従事し、冬には林業や藁細工で収入を得るといったイメージである。その中で収入やかかる時間の割合で本業や副業に区別がなされていたが、働くことで得られる満足感はそれぞれによって違っていた。今でいう2枚目、3枚目の名刺という働き方もこうした所からきているのであろう。
この2枚目、3枚目の名刺と言った働き方や企業内での副業、あるいは主婦やシニアのセカンドワークが今注目されている。副業がアイディアや事業モデル次第では、本業になり得ているケースもあり、地域課題の解決に貢献しているケースも見られる。この働き方の特徴は、時間や資源に制約があることから、限られた資源の範囲内でチャレンジすることにより、起業による初期投資のリスクが低いこと、自身や地域における足元の資源を再発見できることである。一方、制約を補うためにチャレンジャーにとって不可欠なものは、人と人とのネットワークである。これはソーシャルキャピタルと言われるものである。「こ・あきない」というネーミングには、このような意味が込められている。

そうしたことを念頭にtsumikiの起業創業プラットフォームは、構築された。プラットフォームは、「こ・あきない塾」と「こ・あきない市」の2つの事業で構成されている。「こ・あきない塾」は、6回連続の講座でワークショップやフィールドワークを通して、自身の起業創業プランを練り上げていく。「こ・あきない市」は、当初はチャレンジマーケットというサブタイトルを付して開催されたように、実店舗を持たないものの販売できる商品を有する出店者が商品を持ち寄って開催された。回を重ね認知度が高まるとともに、塾で学んだ方が出店したり、町内の生産者やアトリエ経営者の出店も見られる。
この２つの事業の特徴は、女性が多いことである。子育てと両立しながら、あるいは、子育てを終えた女性たちが塾や市に集まる。そこでの情報交換から事業モデルのヒントを得たり、販路開拓に結びついているケースもある。
このほかに、セミナーや相談会といった起業・創業相談、紙媒体やウェブによる広報、委託販売やもくようマルシェなどの販売の機会創出といった本モデルを促進させるコンテンツにより、利府町に新たな「こ・あきない」事業者を生み出している。すでに利府を元気にする多くのチャレンジャーが生まれており、彼ら彼女らの今後の事業にも注目である。

こ・あきない塾塾長　　桃生 和成
tsumikiアドバイザー／宮城大学 准教授　佐々木 秀之

「こ・あきない」の仕組み

tsumiki起業創業
プラットフォーム

起業創業相談
セミナー・相談会
商品開発
トライアル企画

事業モデルや商品の
ブラッシュアップ

こ・あきない市　　**こ・あきない塾**

実演・販売の場の提供
ネットワークの形成

広報
フリーペーパー
ウェブサイト・SNS
インターネットラジオ

販売
委託販売
個別販売
もくようマルシェ

毎回たくさんの
来場者が訪れる。
出店希望者も
徐々に増え常連
の姿もちらほら。

定期的なチャレンジマーケットとして、2017年2月26日に第1回目を開催。初回の来場者約300人。出店者は、利府町の方が8割を占め、近隣の市町から21ブースが参加し、熱気あふれるチャレンジマーケットとなった。2018年2月12日は、4回目の開催となった。

座学の他、訪問することで、塾生どうしの交流も生まれる。

2017年8月から10月まで、公開講座と全6回の連続講座を開催。利府町民3人を含む6人の女性が参加した。実践者の話を聞きに現場を訪問したり、様々なジャンルで活躍するサポート講師が、塾生のアドバイスや相談に応じるなど、小商いを実現させるための方法を見出し、実践を重視するセミナーを実施した。

「こ・あきない」実践中

tsumikiの起業創業プラットフォームの中で、新たな「こ・あきない」の実践者が動き出している。「市」と「塾」を行き来しながら芽吹いた、3つのケースを紹介。

こ・あきない市から こ・あきない塾をへて 暮らすまちで一歩ずつ想いを実現

大宮紗妃さん

キラキラと彩ゆたかなレジンアクセサリーが並ぶ。好きなものだけを集め、ビビッときた感性で自由に作るのがモットーの大宮さんの作品だ。屋号のCarlotta（カルロッタ）は、イタリア語で自由人を意味する。「こ・あきない市」には、2017年2月の初回から連続出店している。
利府町在住で「利府に今までなかった施設ができた。なんだか楽しそう」と出店者募集のチラシを見てtsumikiにやって来た。アクセサリー作りを仕事にしてやっていきたいと考えていた時期でもあった。迷わず出店を申し込んだ。
しかし、1回目の出店時は何を作れば売れるのか、まだまだ試行錯誤だったという。スタッフに勧められ、8月開催の「こ・あきない塾」を受講した。集まった塾生が個性的で、各自がしっかりしたビジョンをもって活動している熱量に圧倒されたと振り返る。小商いの実践者を訪ね、話を聞いたり、塾生とディスカッションを重ねたりするうちに、だんだんやりたいことが整理されてきた。周りに刺激されながら、自分を見つめ直す時間を持てたことが、何よりの収穫だったという。お客さんと対面しながら、顔の見える人に作品を手渡したい。将来的には実店舗を持ちたいと目標が明確になった。
子育てや家事と制作活動はどちらも100％で全力投球。「もくようマルシェ」を手始めに、ほかの地域のイベントに出店し活動範囲を広げている。いろいろな作家たちとつながりをつくりながら、夢の実現に向けての挑戦が続く。

こ・あきない塾での出会いをチャンスに 塾生同士が地域の中で循環する仕事を展開

吉川襟子さん
鈴木由美子さん

利府町に2015年に引っ越してきたデザイナーの吉川さんと、松島町でヨガ&ジョギングの教室を運営し、松島を巡る「御朱走（ごしゅうん）ツアー」を企画実施している鈴木さんは、ともに「こ・あきない塾」塾生だ。塾終了後、鈴木さんが主宰するヨガ教室のWebサイトを吉川さんが作成した。
鈴木さんは「日頃から、顔の見える関係の人たちと仕事をするように意識しています」と吉川さんに依頼した動機を語った。吉川さんは子育て真っ最中の一児の母親。「制作時間に制約があるけど、精いっぱいやろう」と申し出を受けた。仕事においては、最初が肝心。制作物の方針、契約事項の確認はしっかり行った。もちろん制作費用についても同意した。お互い気持ち良く仕事がしたかったという。
塾では、それぞれができること、できないことを補完しあいながら、地域の資源や経済が回っていくという小商いのかたちを学んだ。吉川さんは「誰もが表現したいものを内に持っているけど、視覚化する術がないとしたら、それを引き出し形にする手助けをしたい」と言う。鈴木さんは「出会った縁を大事にし、地域で暮らす人と人をつなげながら仕事をしていきたい」と語る。
次は、「御朱走ツアー」のサイトを制作することになっている。御朱走とは、御朱印×走る×ミシュランを掛け合わせた造語で、ランニングやウォーキングをしながら寺社を巡るツアー。鈴木さん独自の企画だ。インバウンド観光も見込んだユニークなこのツアーを、二人で広く発信してきたいと意気込んでいる。

tsumikiオリジナル商品を創りだす こ・あきない市から委託販売への試み

熊谷苑子さん

「nocolier（ノコリエ）」の屋号で活動する陶芸家の熊谷さんは、利府町の自宅工房で制作活動をしている。tsumikiには、2017年2月の「こ・あきない市」に出店したあと、2017年8月から2018年3月まで委託販売出品者としてかかわっている。作品は日常使う食器が主で、手に取って面白い発見があるものというのがコンセプト。
tsumikiでの委託販売は、売上げより作品をアピールすることを目的として出店。店舗を持たない熊谷さんにとって、いつ来ても作品が置いてある場所があることはありがたいことだという。お客さんの反応や要望は、スタッフを通じて伝えてもらえるので、作品作りの参考にもなる。
正直今までは、利府町での販売は考えたことがなかった。販売ルートは、東北の他の市町に向いていた。しかし、せっかくのチャンスだから、利府らしいもの、tsumikiでしか買えないオリジナル商品を作ってみようと考えた。そこで生まれたのが、梨をイメージしたブローチと髪ゴム。普段使いができて、身に付けるアクセサリーは、多くの人に見てもらえて広がっていくはず。そのねらいは、見事に当たりヒット商品となった。
手応えをつかみ、次は得意の食器に挑戦。新作「梨うつわ」は、梨を食べるときにお勧めする器で、町内の梨農家とコラボして売り出したいと想いは膨らむ。

取材・文　tsumikiチーフコーディネーター　葛西淳子

利府町のんびりまち歩き

駅前～館山公園

案内人●「りふくる」赤間泰樹さん・佐藤誠さん・佐藤聡明さん

「りふくる」は、利府を盛り上げようと活動している市民団体です。

利府駅前

カラフルなブロック敷きの道を北上。実はここは隠れたメインストリート。

旧・利府街道

旧・利府街道には、古くからの町並みやお寺、神社、石碑が残っています。昔ながらのラーメンが人気の老舗食堂もあります。

館グランド

館公民館の裏手にある館グランドにちょっと寄り道。「うひょ～」不意に出てきたヒョウ？の置物。「何を見張っているんだろう？」車道は整備されて道幅も広くなっているけど、南側ルートに比べるとかなり遠回り。

北側へ

「南側ルート」断念…

利府小学校脇から登る「南側ルート」から館山公園を目指すはずが、予想外の「立入禁止」。利府小学校改修工事のため通行止めでした。小学校は、2018年12月に完成予定です。館公民館から西側に迂回して駐車場のある北側ルートに変更。

駐車場から林の中を行く北側遊歩道を登り、館山公園の頂上へ。少々キツイ坂道だけど、木漏れ日が心地よい。

館ケ沢A遺跡

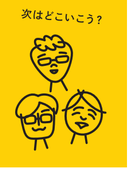
「館ケ沢A遺跡」の看板。駐車場付近に造られた町営墓地建設工事に先立ち、発掘調査を行ったところ、平安時代の住居跡や土師器、鉄製品などが見つかったそう。

館山公園 頂上に到着！

眺めは最高！駅前から所用時間約40分。利府駅やペア・ブリッジ、北部道路もよく見えます。「利府町のほぼ中央に位置する館山公園（利府城跡）は、標高約90mの高台にあり、利府のまちなみが展望できる眺望スポットです。利府城は自然地形を利用した山城で、伊達政宗公の叔父である留守政景氏が居城としました。（利府町HPより）」

公園内から「ウギャーギャーギャー！」と鳥の鳴き声が聞こえてきました。木々には、無数の目玉バルーンも吊るしてあります。これは、桜のつぼみを食べる「ウソ」という鳥の食害対策でした。

館山公園は、桜の名所。春にはみんなで、お花見に出かけてみませんか。



十符の里びと

6人目

-お名前

すがわらじゅんいち さん

-なにをしているひとですか？

利府町在住のアーティスト。
アイリンブループロジェクト代表です。

アートは「人と人とを結びつけるもの」

利府町を拠点に、美術家として活躍しているすがわらじゅんいちさんにお話しを伺いました。宮城県塩釜市に生まれ、独学で油彩画を学びました。1997年に利府に移り住み、美術家と仙台の病院調理師という2足のわらじを履いて活動。東日本大震災以降退職し2015年からは、「アイリンブループロジェクト」代表として復興支援に力を入れるなど幅広い活動を展開しています。また、町の芸術文化振興にも積極的に関わっています。

きっかけはゴッホの自画像

すがわらさんが、美術の道へ足を踏み入れるきっかけとなったのは、26歳の時。新婚旅行で訪れたフランス・パリで、ゴッホの自画像に出会ったことでした。「あの頃、巷ではゴッホのひまわりが高額で落札されたことが話題になっていて、一度、実物をこの目でみてやろう」という気持ちから現地に向かったそうです。

初めて本物を目にし、絵から発せられる表現する力を感じ取り一瞬で虜に。帰国後すぐ、精力的に油絵の制作にとりかかりました。そして、フランスの寺院を描いた作品が初出品で、多賀城市美術展・受賞を果たします。その後も油絵を描いていましたが、創作活動を続けていくなかで、人とは違う画材を試したいと思い始めます。そして生まれたのが、さび止め剤と鉄粉を吹き付けて描く独自の画法。現代アートの道へと転身を遂げたのでした。

「作品のテーマは侘びさび・禅。私は誰もやっていないことをみつけて、オリジナリティに変えるのが好きなんですよ」と話すすがわらさん。その後も数々のコンクールに入賞し、仙台市、北上市などでも個展を開催、2012年には利府町生涯学習センターで個展を開きました。

作品「利府・遊遥」～リサイクル鉄で描く侘びさびの世界～

心の復興と次世代への伝承

東日本大震災後、「ひかりのみちプロジェクト」が復興庁主催の第一回REVIVE JAPAN CUPアート部門グランプリを受賞。さらに力を入れているのが「アイリンブループロジェクト」です。震災で犠牲になった石巻市の佐藤愛梨ちゃんが見つかった場所に咲いていたフランスギクを全国で咲かせることで、震災の風化を止め、心の復興へつなごうというものです。愛梨ちゃんの母・佐藤美香さんと交流のあったすがわらさんは、復興工事が続く発見現場に咲いた花を見つけ、その一輪を利府町の自宅に持ち帰りました。数日して枯れかけた花をプランターに挿しておいたところ、なんと、そこから発芽し華麗な花を咲かせたのでした。これをきっかけに、被災地から未災地へ、花を通した防災リレーが始まりました。

すがわらさんは、「震災を風化させないこと、震災の教訓を次の世代に伝承していきたいと思っています。あいりちゃんの花のもとに集まった人たちと一緒に防災を語り継いでいきたい」と言います。そんな思いが県内外の人たちに伝わり、たった一輪の花が今では全国に広がっています。

2016年仙台市の三島学園東北生活文化大学・高等学校内の花壇に約10株を植え植栽活動がスタート。その後、みちのく杜の湖畔公園のほか、愛知、愛媛、埼玉、群馬、京都、山形などにも植えられました。協力先は国土交通省・東北地方整備局・公園管理事務所、国営・みちのく杜の湖畔公園、JA厚生連海南病院、愛知県弥富市、立教大学、京都龍谷大学など多岐にわたります。また同年、映画監督の片岡翔氏によって短編映画「ふうせん ふふふ そら ららら」が制作され、作品は札幌国際短編映画祭にノミネートされました。

2017年10月に南海トラフ地震の発生が懸念される愛媛県で行われた民生委員100周年で講演した際は、約3,000名の方々に花の種が渡されました。また、東京オリンピック会場付近の「お台場・おもてなし花壇」にも花畑が作られ、復興オリンピックを象徴する花になることを目指しています。

花・防災・アート

「利府町を訪れる人を、あいりちゃんの花でおもてなしができればいいなあ」と、すがわらさんは考えています。利府町は、2020年東京オリンピックのサッカー競技会場予定地になっています。「利府町にアイリンブループロジェクトの取り組みを広げて、復興五輪をアートで彩り地元を盛り上げていきたいですね」。今後は、一緒に活動に参加してくれる方々を募り、若い世代の可能性を広げるコーディネート役も果たしていきたいと意欲的です。「まずは、利府駅前のtsumikiにあいりちゃんの花を植えたい」。花のもとに集まった人たちのコミュニティで震災を語り継いでいく。人とのつながりは、防災にもつながるのです。

「どんな素晴らしい作品も自然や花の美しさには到底かないません。絵を描いたり、彫塑を創ったりするのと同じように、今はこの花で、どう創造性を広げていけるかに夢中なんです」と語るすがわらさんは、これからもアートがもたらす可能性を追求し続けます。

取材・文　tsumikiライター 佐々木三智子

-活動の情報　アイリンブループロジェクト実行委員会

［事務所］宮城県宮城郡利府町菅谷台4-26-12
airinblue2016@gmail.com
代表　菅原淳一
http://airinblue-project.jp/

利府町で暮らす面白い人を毎号ひとりずつ紹介していきます

十符（とふ）とは？ …… 昔、利府町の湿地帯には、良質な菅（スゲ）草が自生し、「菅薦（スガコモ）」と呼ばれる敷物が作られていました。その菅薦の編み目が 10 編あることから「十符の菅薦」と呼ばれ、みちのくの「歌枕」としてもうたわれていました。これが、「十符の里」「十符の浦」と呼ばれるようになり、十（と）が利（と）に、符が府に変わったと言われています。

from RIFU-CHO

CHALLENGER

君は「ナシルバー」を知っているか？
今回はあの気になるヒーローへの突撃取材に成功！

— CHALLENGER

梨ん幹戦士 ナシルバー

ナシルバーとは

梨ん幹戦士「ナシルバー」は、利府町観光協会が公認する利府町のヒーローである。震災復興を目的として、多賀城市のヒーロー「タガレンジャー」とともに、多賀城市、塩釜市、松島町、七ヶ浜町、利府町の二市三町それぞれにご当地ヒーローを！ということで誕生した。子どもたちに笑顔を与える活動や利府を広く知ってもらうための活動を行っている。今回、その詳細を知るため、ナシルバーに突撃取材を試みた。

“我らが利府のヒーロー 梨ん幹戦士 ナシルバー”

ナシルバーは利府の象徴

名前からもわかるように「ナシルバー」には利府町の要素が余すことなく盛り込まれている。胸には利府梨のシンボルが刻まれ、サッカーボールの飾り、新幹線の車両基地を由来に、見ると幸せになると言われる点検車両のドクターイエローをモチーフにした剣など、一目見ただけで利府の特徴を知ることが出来る。これからさらに利府の象徴になるようなものが増えればナシルバーのアイテムも変化するかも！？

真剣に取材に答えるナシルバー

ボランティアヒーローとして

ナシルバーが現れるのは利府町だけに留まらない。ヒーロー活動は、基本的に土日限定で行っているが、その活動は町内外のイベントなど幅広い。梨まつりや海産物まつり、新幹線車両基地まつりなど町内のイベントはもちろん、コポスタ宮城やグランディ21のアリーナコンサートのステージなど大規模なイベントにもボランティアで出演し、町内外に広く利府をＰＲしている。「呼ばれたら地域のお祭りにも行きます」と、イベントの規模に関わらず、活動のほとんどはボランティアで行っている。そのため、月のほとんどの土日をヒーロー活動に費やすこともある。

「利府町をもっと盛り上げて、たくさんの人に来て欲しい」。利府のために、そんな熱意と善意で活動するナシルバーは、まさに真のヒーローだ。

取材・文　tsumikiライター 松二人／tsumikiコーディネーター佐藤陽友

ナシルバーは、ひそかに蔵王梨で有名な蔵王町にライバル心を持っているらしい。

— INFORMATION

梨ん幹戦士梨ナシルバー

Facebook
「ナシルバープロジェクト」

出現情報などを発信中。
我らが利府町のヒーローに会いたい人は今すぐチェック！

tsumiki INFORMATION

2018.3

3/15（木）

10:00-15:00
●入場無料

もくようマルシェ vol.7

毎月第 3 木曜日は、利府町内外から人気のお店が集まる、ちいさなマーケットを開催。今回は、アクセサリー、布小物、加賀ゆびぬき、こぎん刺し小物などの作品販売のほか、手しごとのワークショップ、味噌作り体験ができます。Bagel&Bread spica のパン販売。お隣りふレ横丁では、もくようマルシェとタイアップした限定ランチもあります！

3/16（金）

19:00-20:30
●要申込

土地の風土と共に生きる
地方でこだわりのお店を営むということ

ゲスト　佐藤渉さん（SATO 店主）

［参加費］500円（ワンドリンク付）［定員］20人

岩手県平泉駅前にある、洋食と喫茶のお店「SATO」。
地方に開業した小さなお店が、どうやってはじまり、どんなふうに経営されているのか、いろいろお話しを伺います。

3/21（水祝）

13:30-15:00
●要申込

利府から広げよう！
花が伝える防災と命

ゲスト　すがわらじゅんいちさん
（アイリンブループロジェクト実行委員会代表）
佐藤美香さん（石巻市）

［参加費］500円（ワンドリンク付）［定員］30人

震災を語り継ぎ、防災を伝承する活動をしているお二人のお話。
短編映画「ふうせん ふふふ そら ららら」上映（15 分）。
そして、みんなで「あいりちゃんの花」を植えます。

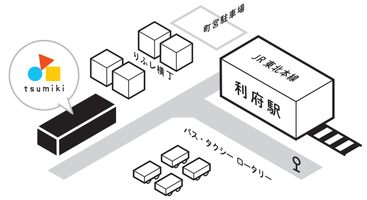
各種イベント・講座のお申し込み
［TEL］022-766-9231　［E-mail］info@rifu-tsumiki.jp
お名前（ふりがな）・電話番号・メールアドレスをお知らせください。

tsumiki
利府町まち・ひと・しごと創造ステーション

利用時間
9:30-17:30
（水・金曜日は21:00まで開館）

休館日
火曜日・年末年始

〒981-0104
宮城県宮城郡利府町中央1-5-2
TEL　022-766-9231
FAX　022-766-9232
Email　info@rifu-tsumiki.jp



設置者　利府町（政策課政策班）

利府町では、地方創生に向けて良好な住環境に「ワクワク感」をプラスした魅力的なまちづくりを進めています。政策課政策班は、地方創生の総括部門として「利府ならでは」のシティセールス政策や、移住・定住政策などに取り組んでいます。

管理運営（業務委託者）　一般社団法人Granny Rideto

Granny Rideto（エスペラント語）は、日本語で「おばあちゃんの笑顔」と訳します。これから高齢化社会を迎える中で、おばあさんになっても笑顔で暮らせる社会をつくりたいという意味が込められています。同時に「Granny」には「おせっかい」という意味があり、地域のおせっかいをやく役割を担うという意志が込められています。

公式ウェブサイト
rifu-tsumiki.jp

Twitter
@rifu_tsumiki

Facebook
〈tsumiki〉で検索

Instagram
@rifu_tsumiki

つみきのキモチ vol.06　発行日●2018年3月9日　発行●利府町
企画●一般社団法人Granny Rideto　編集●桃生和成・葛西淳子（一般社団法人Granny Rideto）　デザイン●homesickdesign